

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100308		
法人名	有限会社 アクティーサービス		
事業所名	グループホーム 向陽台		
所在地	千歳市白樺2丁目1-1		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100308&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100308&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者主体という事を心掛け日々取り組んでいる。
- ・共同生活の中で個人の思いを一つでも多く感じ支援していける様に、ご家族様、全職員で情報を共有し、協力体制を作っていけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元女子寮を改装した4階建て建物の3階・4階部分が事業所であるが、全体に広くて明るく、1階・2階のスペースも利用できる。居間や居室の窓は眺めが良く四季の移ろいを感じることができる。共用空間には程良く装飾が施され、家庭的で温かい雰囲気である。自己評価・外部評価に対する意識が高く、前回の外部評価の取り組み項目に積極的に取り組み、殆どが改善されている。運営理念の共有と実践にも優れており理念を全職員が理解している。理念は毎月の会議で確認され、利用者全員の介護計画にも取り入れられ実践されている。地域交流が盛んで、毎月「地域交流会」を開催しカラオケを楽しんでいる。地域の方々が、大勢参加し、利用者や職員と触れ合っている。職員の発案で始まった「地域交流会」での隔月開催の喫茶室も喜ばれている。交流会を通して親しみを感じてくれた地域の方々から山菜や花を差し入れていただくこともある。馴染みの人と場との関係継続を大切にしており、知人や友人が訪問しやすいように環境づくりをしている。毎月のように訪問してくれる方もいる。また、利用者が知人を訪問する際は職員が車で送迎しており、家族の協力でお墓参りや法事などにも出かけている。職員は利用者の生活歴や人生の歩みを踏まえ個々の人格を尊重しているので、職員の利用者に対する態度は丁寧で優しく、利用者は明るくゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(3Fだけのアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成しており、内容をわかりやすくしたものをユニット内に掲示し、職員同士で話し合い全員で理念を共有し実践につなげている。	「自然・地域との共生」を位置づけた事業所運営理念を、各ユニット、事務所、スタッフルームに掲げている。理念は毎月のユニット会議で確認されており、介護計画も事業所の目指すサービスを意識しながら作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域交流会を行っておりホーム内行事や町内会の催しなどにお互い参加できる関係ができています。また地域の方より、山菜や花の差し入れも有る。	事業所に併設されているスペースを有効活用し、毎月「地域交流会」でカラオケを行ない地域の方々も大勢参加してくれている。また、地域の中学生在が散歩の時に声をかけてくれたり、子供御輿が事業所の駐車場まで来てくれるなどの触れ合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習や実習生の受け入れ等、学習の場の提供や行事参加を通じ認知症の人への理解を得られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催しており、ホームの活動状況・報告や参加委員の意見等交換しサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	会議には、町内会長、副会長、民生委員、地域包括センター職員、家族代表等が参加して活発に意見交換を行なっている。開催日は偶数月の第3水曜日として、参加メンバーには開催日を月初めに文書で連絡し議事録も配布しているが、家族全員には配付していない。	家族代表以外の家族にも運営推進会議の内容に興味を持ってもらい、意見を出してもらえるように、毎月発行の広報などを利用して、運営推進会議の開催日や議事録の内容紹介、参加の呼びかけを行っていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相互の訪問等で情報交換を行っている。また、必要に応じて市担当者との話し合い、相談行っており協力関係が築けるよう取り組んでいる。	毎月、市に事業所の空き状況を提供し、市の担当者には困った時に相談にのってもらっている。また、管理者全員がキャラバンメイトとして登録・活動し、中学校の職場体験で毎年中学生を受け入れるなどの協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行われていないが新しく入社した職員もあり、具体的な内容を正しく理解しているか不安が有る。正しい内容を理解する為の勉強会を行う必要が有り、今後も身体拘束をしないケアへの取り組みが必要である。	身体拘束マニュアルが整備されており、先月は各ユニット会議で、身体拘束について勉強会を開催し、事業所で作成した資料を全員に配布した。建物の玄関には、内側からは開けられる鍵を取り付けてあり、センサーも設置されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を共有し虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い虐待防止に努めている。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人で研修に参加したり、資料や、内容を職員間で話し合い知識を深めるように努めているが、詳しい内容までは理解されておらず、学ぶ機会を設け活用出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行っており理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や、ご家族様が意見・要望を申し出る事が出来る体制を取っており、迅速に対応、改善に努めている。また外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	家族が訪問した時に意見や要望を聞いている。また、介護計画の見直し時に、家族宛に用紙を提供し、意見を書いてもらっている。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談などを通し、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、可能なものは改善に向け反映させている。	毎月のユニット会議と、年3回の全体会議があり、職員は活発に意見交換している。また、年に1度の個別面談には本部部長が個人面談して意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にホームへ足を運び現場での状況を把握し、各自が向上心を持ち働けるよう努めており、職場環境、労働条件の改善も少しずつ整備されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の望んでいる研修を把握する為にアンケートを取り参加しやすいように工夫している。また、経験年数に応じた外部の研修を受ける機会を設けており、働きながら学べる環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム等市内の事業所で「絆の会」を発足させ同業者との交流を行っている。また、行事・研修なども行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人より不安・要望などに耳を傾け安心して生活出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に『暮らしの情報』という用紙を作成し入所前の情報を把握しご家族様の不安・要望などに耳を傾けながら、入所後も相談の場を設け安心して生活出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時や入所時に必要としている支援を話の中から把握し本人及びご家族様に適したサービスが利用できる様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活を主体にしながら共同生活であるという事を意識し入居者・職員が助け合いながら生活出来るような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・ご家族様・職員で情報交換を密にし、お互いの協力関係を大切にし本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じご家族様の協力を得て馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者の知人や友人が事業所を訪問してくれるので居室や居間でゆっくり話をしてもらっている。毎月のように訪問してくれる方もいる。利用者が知人を訪問する際は職員が車で送迎をしている。また、家族の協力を得て、お墓参りや法事などにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり利用者間でトラブルが起こらないように職員が間に入り注意深く見守り・支え合えるような支援に努めている。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fだけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて関係機関との情報交換・相談等、支援に努め体調回復後に再入居されることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や生活暦の見直し、ご家族様との情報交換から本人の意向の把握に努めている。	言葉で表現できない利用者には、表情や仕草で思いや意向を察するようにしている。一人ひとりの生活歴や希望をアセスメントシートに詳細に記録し、6ヶ月毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご家族様より作成していただいた『暮らしの情報』や本人の言動・行動を基に職員間で検討し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、その日の体調等を含め本人の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族様の要望を取り入れながら現状の課題を話し合いケアマネジャーとの協議、全職員参加ケアカンファレンスを実施している。時には本人も出席していただき現状に即した介護計画を作成している。	医療機関や利用者・家族、職員の意見を聞いて利用開始後1カ月で介護計画を作成する。その後1ヶ月後に見直し、状況が安定した時点で、3ヶ月毎に担当職員が中心となったモニタリング、全職員でのケアカンファレンスにより短期3ヶ月長期6ヶ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護計画・連絡ノート・口頭などで職員間の情報交換を行いケアの実践や見直しを行い介護計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の希望やニーズに沿えるよう、ご家族様と相談・協力しながら一人ひとり生活を支えていけるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを大切に、町内会・医療機関・相談機関など適切な地域資源を活用でき暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じ、かかりつけ医の受診を行っている。またホーム協力病院往診後のかかりつけ医の指示に従い適切な治療を受けている。	訪問診療してくれるので殆どの利用者が協力医療機関にかかっているが、従来からのかかりつけ医にかかるのは自由である。協力医療機関からの「情報提供表」や個別の連絡ノート等で医療情報を全職員で共有している。	

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置されていないが協力病院の看護師に相談しながら適切な受診や看護を受けているが、夜間の特変時については不安が残る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホーム・医療機関で情報の交換を行い、退院前にはご家族様・医師・職員での話し合いの場を設け本人・ご家族様の精神的不安を軽減出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族様の意向を配慮しながら、今後ホームでの生活の可否をご家族様・医療機関・ホームで話し合いを行い方向性を共有している。	重度化や終末期に向けての方針を示した「急変時対応希望書」があり、全職員で方針を共有している。利用開始時に家族・本人に「急変時対応希望書」を示し、説明して同意書を交わしている。今後は利用者の状態の変化に応じて再度説明をしていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院、消防署による講習で学ぶ機会を設けマニュアルは作成してあるが、全ての職員が実践できるわけではなく、定期的な訓練の場を設ける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と連携し避難訓練を行っているが地域との協力体制は十分とはいえ調整が必要である。	消防署の協力を得て、年2回昼・夜間想定の方針を示した「急変時対応希望書」があり、全職員で方針を共有している。利用開始時に家族・本人に「急変時対応希望書」を示し、説明して同意書を交わしている。今後は利用者の状態の変化に応じて再度説明をしていく予定である。	運営推進会議で話し合い、町内会の方や地域の方に連絡網に入ってもらったり避難訓練に参加してもらいなどの試みを期待したい。また、災害用の備品についてはリストアップは済んでいるとのことであり、実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせプライバシーに配慮した対応をしている。又、排泄に関しては特に職員間で隠語を使用する等工夫している。	利用者の生活歴や人生の歩みを踏まえて個々の人格を尊重している。呼びかけは「名字」か「名前」をさんづけし、優しく言葉かけをしている。共用空間での個人記録ファイルは表紙を工夫して分からないようにし、全ての個人記録は保管場所を取り決めて管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせたコミュニケーションの方法を工夫し本人が思いや希望を表現しやすいような環境作りに努めており、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診や勤務体制により希望通りに対応する事が十分ではないが、一つでも対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に一緒に服を選んだり毎月1回訪問理美容サービスを利用しており、おしゃれ・身だしなみの支援を行っている。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせ食事準備、献立作成時に好みの物を取り入れたり個人の能力に合わせ準備や片付けを職員と一緒にやっている。	職員が毎週交代で利用者の好みを聞きながら献立を立て、週1回の食材の買い物は利用者と一緒に車で出かけている。食事介助を行なう利用者が多いため職員は利用者と一緒に食事をとっていないが、誕生会や餅つきなどの行事食や回転寿司やラーメンなどの外食の時は職員も一緒に同じものを楽しんで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に台帳にて1日の食事・水分量を把握しており、月1回系列の施設の栄養士にカロリー計算を依頼し栄養バランス・水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていないが個人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。また、オムツ使用の方も定期的なオムツ交換を行っている。	排泄チェック表・バイタルチェック表等でパターンを把握して声かけし、夜間以外は全員がトイレで排泄できるように支援している。利用開始後にリハビリパンツから布パンツに移行できた利用者もいる。職員同士の排泄に関する言葉を暗号化したり、利用者には耳元で声かけをするなど周囲に分からないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し乳製品の摂取や運動の声掛け等行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望にそえるよう努力しているが、受診や入浴時職員二人体制での支援が必要な方が増えており十分な支援ができていないといえない。	毎日14:00～16:00の時間帯で入浴が可能である。全員が最低週2回を目標に入浴支援をしており、週4回入浴している利用者もいる。入浴拒否の利用者にはお気に入りのものを携帯してもらったり、声かけを工夫しているが、入浴できない場合は足浴や清拭等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその時々状況に合わせて話の傾聴や会話の提供一緒に行動するなど安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、ホーム行事参加、書道、音楽、写真集など一人ひとりに合わせた楽しみ事・気分転換ができるよう支援している。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3Fたけのこ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望にそえる様努めており、墓参り、法事、銀行、温泉旅行、散歩や外出行事等ご家族様や町内の方等に協力いただきながら外出支援を行っている。	天候の良い時期には希望すれば毎日でも散歩ができる。花見や紅葉狩り、スポーツセンターや地域のテーマパーク、大型ショッピングセンターなど外出行事を充実させている。冬場は外出の機会は少ないが、通院や買い物、ゴミ出しなどで少しでも外気に触れるよう工夫している。今年度は新しい試みとして初詣を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者に合わせてホーム預かりや本人管理にてお金の所持・支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時に対応しているが、家族の要望で電話を希望されない方もおり家族との調整も含め柔軟な対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓に花を飾ったり季節感をとり入れ居心地の良い空間を作っており、居室内・湿度・温度をチェックし快適に過ごせるよう工夫している。	各ユニット入口におもてなしの雰囲気を出し出すコーナーを設けて明るさを演出している。台所と居間が一体となった空間からは外の景色が見渡せ、四季の移ろいが感じられる。全体に程良い装飾が施され、家庭的で温かい雰囲気である。建物の構造上、段差があるなど不便な箇所もあるが職員の工夫と努力で改善を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数ヶ所にソファを設置し自由に過ごせる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得てテーブル・ソファ・仏壇など本人が大切にしていた物を持ち込まれ居心地良く生活できるように工夫している。	居室入口には、木目調をあしらった職員手作りの表札が飾られている。居室には2タイプのクロゼットと棚が備え付けられ、利用者の好みの家具や物品が持ち込まれている。利用者の状態変化に応じてベッドの種類を変えるなど心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合わせて目印や手すりなど設置し安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100308		
法人名	有限会社 アクティーサービス		
事業所名	グループホーム 向陽台		
所在地	千歳市白樺2丁目1-1		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の思いを感じ、穏やかに安心して生活できるよう支援している。  
外部との関係を絶つことなく、地域の中の一員として役割を持って生活できるよう支援している。  
日々の生活の中で出来る事を最大限発揮し、自立した生活が送れるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100308&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100308&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(4Fどんぐりアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に運営理念を掲げているとともに、日々の業務の中にも理念を取り入れた活動やケアプランを作成している。また、会議等で話し合い共有するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域交流会を開催し、交流を図っている。また、地域での行事にも積極的に参加したり、山菜やお花等を持ってきてくれたりと日常的な付き合いが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事に参加していただき、地域の方々にも認知症の方との接触を持つよう声掛けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご家族や町内、包括支援センターからの助言や要望を組み入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当ホームでの情報を常に報告し、相談や助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を定期的に行い身体拘束の意味をきちんと理解し、日々の生活の中にも拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を定期的に行い虐待の意味をきちんと理解している。日常の業務でも言葉使い等に十分注意を払っている。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を閲覧できるよう置かれている。また、機会があれば研修等にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で十分な説明を行い、不安や疑問には適切な回答をし理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を伝えやすいような雰囲気をつつでも作り、面会時などに気軽に話せるようにしている。出された意見・要望には全職員で話し合い反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、スタッフ全員が意見を述べる事ができる機会を設けている。また、日々の業務の中でも話ができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談やアンケート等で個々の意見を聞き、日常の業務も向上心が湧くような声掛けを行っていている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加できる機会を設けていている。また、業務の中での疑問点や対応等判断が難しい部分を指導していている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同の研修に参加し交流する機会を頂いている。また、合同運動会を年1回実施し他事業所との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からどの様に生活されていたのか、どの様に過ごされたいのか等要望を取り入れ、環境の変化にできるだけ早く慣れ安心していただけるようなコミュニケーションを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がホームを利用するにあたって不安な事や要望等を聞き入れ、相談に応じれるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が求めている支援をスタッフ全員で検討し、できる限り要望に応えられるよう努めている。対応が困難な場合には他のサービスを紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを多く取り、本人の生活の一部になれるよう努めている。できる事はやっていたり、一方的に話をしないなど接し方に気をつけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの意見や要望を聞き、コミュニケーションを取り入れながら、本人が良い環境で生活できるように共に支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の支援や本人からの希望で知人宅への外出の送迎も行っている。また、ホームでの行事に知人の方の参加も取り入れたり電話等も自由に使用していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が図れるよう歌を唄ったり、レクレーションを一緒にいきコミュニケーションが円滑に行われるよう心掛けている。また、入居者同士の相性のよし悪しを把握し無理に近づけたりせず、自然に関わるよう努めている。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の方や同業者の方から現況を聞いたりしている。また、その後の対応等相談に乗ったりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望に添うよう環境を検討したりし、以前の暮らしと変わらないような生活リズムを提供するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、入居以前のサービス提供機関などから情報をいただき状況を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を共有するために個別台帳などに細かく記入し把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の希望等を全スタッフで共有し、定期的にカンファレンスを行い現状にあった計画をスタッフ全員から意見を出し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別台帳や個人ノートに気づきやケアの経過等を細かく記載し情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により入居以前から利用していた美容室に出かけたり、友人宅への外出支援のため、送迎も含めて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを大切に、町内会、医療機関、包括支援センターなどの適切な地域資源を活用し楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はもちろんのこと、他科受診においてもホームでの身体状況を報告し、適切な対応をしていただけるよう支援している。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の定期的な往診の際や特変時など随時相談にのっていただき適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームで記載したフェイスシートを病院に提出し、混乱せずに対応が出来るようにしている。また、入院時も定期的に病院と連絡を取り合い、情報交換をし早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際にホームでできること、出来ないことを説明し同意を得ている。また、入院されてからの医師からの話し合いには家族と共に同席させて頂き、今後の方向性について話あっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同業者や救急隊員・協力病院との救命講習を定期的に行っている。また、会議等で話し合いの場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に関しては年に2回行っている。また、市の防災訓練にも参加している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を把握し、尊重した対応・声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが落ち着いた生活が送れるよう環境作りに努め、自分の意見を言いやすい雰囲気をつくっている。また自己決定できるような声掛けの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で日々の日課を決めるのではなく、入居者の希望に添うような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は自分で選んでいただき、本人の好みを取り入れていただけるよう支援している。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には本人の希望を取り入れたりとしている。食事の準備や片付けはその人の力量に合わせて行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を一人ひとりに合った形状や食器の工夫を用いて提供している。拒否が見られた際は言葉掛けや時間をずらしたりして摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い口腔ケアを行っていただいている。また、その方の力に応じたケアの仕方に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にあった対応をしている。オムツや紙パンツを使用している方にも定期的な声掛けを行い便座での排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が不足しないよう献立作りを心掛けていくと共に適度な運動も日々の中に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添って対応している。間隔の空かないよう声掛けを工夫し入浴を促し、清潔を保てるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて昼間に休息をとられたりしている。夜間入眠状況が浅い方には日中の活動量を見直し、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬シートを個別台帳と一緒にファイルし薬の内容等を把握している。用法や副作用などをきちんと理解し服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何が好きなのか、何に興味があるのかななどを把握し個々にあったホームでの役割や楽しみを支援している。		

グループホーム 向陽台

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4Fどんぐり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に添って買い物や行事にて外出は行われている。天気の良い日は散歩や近隣の公園などにも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じてお金を所持してもらっている。又、自己管理が出来ない方は本人や家族の希望により金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はいつでも使用できるようになっており、希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースはすっきりと使いやすく工夫されており、明るさや空気が不快にならない様に配慮している。観葉植物なども取り入れ落ち着く雰囲気を出す工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置により、入居者同士で談話されたりテレビを見たり、喫煙されたり好きな場所で好きなように過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いままで使用されていた馴染みの家具等を持ってきていただいている。居スペースは個人の自由に行っているため、落ち着いた雰囲気でも過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、出来ないことを見極め、最低限の介助を行い、安全を保ち自立した生活ができるようにしている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 向陽台

作成日：平成 24年 1月 10日

市町村受理日：平成 24年 1月 13日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防避難訓練を年2回、入居者と職員で行っているが、入居者の身体レベル及び日々の勤務している職員数から入居者の安全確保は現実問題として困難な状況と思われる為、地域の方々の協力を得られるような手立てを考える必要があると思われる。	ホームでの消防避難訓練に地域の方々に参加していただき、災害時における入居者の安全確保の難しさを理解してもらう。ホームと地域との間で災害時連絡網を作成する。災害用備品の整備を行う。	運営推進会議メンバーに訓練の見学や参加をお願いし、職員のみで対応する困難な現状を理解していただくことで、メンバーの助力を得ながら地域住民の協力体制を築ききっかけとする。地域との連絡網は町内会役員の協力により作成する。災害用備品を順次購入、整備していく。	6ヶ月
2	4	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しているが、ご家族からの意見や要望が出されるケースがほとんどない状況にある。今後は運営推進会議メンバー以外のご家族からもホームに対して気軽に意見や要望を出していただけるシステム作りが必要と思われる。	ご家族に運営推進会議の内容を知っていただく方法及び意見や要望を気軽に発することが出来る環境作りを行ない、運営推進会議の充実とご家族との密接な連携関係を構築する。	ご家族に会議の中で議論された内容について広報紙発送時にお知らせし、会議内容の理解を得る。会議の日程を事前にお知らせし、メンバー以外でも自由に参加し意見・要望が出せる会議を実現させる。年に1度、ご家族にアンケートによる意見収集を検討する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。